

# 「サバオク」



2016年6月27日、鯖江市とヤフー株式会社、NPO法人エコプラザさばえの3者は、インターネットのオークションサイト「ヤオフク」を運営するヤフーと、鯖江市における環境保全活動支援と地域活性化に関する「リユース協定」を締結しました。全国初の取り組みとして注目される中、その運営の中心として活躍中の「NPO法人エコプラザさばえ」畑中雅博事務局長にインタビューしました。

なぜ鯖江で全国初の「サバオク」が始まったのですか。

畑中 最初はヤフーからの提案でした。リユース（再利用）を大きく広げたい



とするヤフーが全国の自治体のどこが相応しいかを検討した結果、

IT事業に意欲的な鯖江市に注目し、市はわたしたち「エコプラザさばえ」の環境活動の実績などを評価して、運営主体にならないかと打診を受けました。協定締結が6月下旬で、オーク

ション開始が9月6日でしたから準備期間は短く、果たして間に合うのか、スムーズに始められるのか不安がいっぱいでした。

多くのマスコミとヤフーのトップページ、市広報などで周知は進みましたが、具体的に市民の方に物品を出してもらわなければオークションは始まらないわけです。いろんなテーマで出かけている出前講座の終わりの時間等を利用して「サバオク」の説明もさせていただき、ようやく出品の申し出を頂きました。

また、初めて知ったことですが、この事業には「古物商」としての営業ができる県公安委員会の認可が必要でした。個人なら比較的に楽なようですが法人の場合は先ず定款改正が必要でした。そし

て、役員全員の資格も問われるので、認定されるまでに4ヶ月くらいかかったと思います。予想外の出来事でした。

鯖江市とヤフーという大看板が後ろ盾としてあったのと、「エコプラザさばえ」が県内で2つしかない「認定NPO法人」に指定されていたことなどから、市民の信頼感を得られたと感じました。

具体的なシステムとオークションの状況を教えてください。

畑中 先ずは市民の皆さんに出品の情報提供を求めます。続いて、その商品をわたしたちスタッフが取材し、オークションに出せると判断できれば撮影し、サバオクのページに掲載し、出品となります。商品は、民芸品、家具、レコード、電気製品、玩具、骨董品、楽器など多様でした。



毎週日曜日の深夜11時に終了するように設定し、最初

は約50の商品で1円スタートから始め、徐々に出品点数を増やしていきました。

落札し成約の後に入金を確認すると、提供者から商品を受け取り、梱包して商品を発送します。

落札額としては、1万9000円から1円までと幅広く、300点余が落札され、合計45万7839円が集まりました。

落札者はほとんど県外の方で北海道から沖縄まで全国に広がっています。



落札者の中には、活動の趣旨に賛同して落札額より多額を入金して下さる方もあり感激しました。



また、出品者はほぼ全員が鯖江市内の方です。今回は9月6日から10月14日までの官公庁オークションのスケジュールに合わせた期間限定のキャンペーンでした。

